

# 社会の様々な事象に対する関心を高めることを目指した NIE の実践

宮崎日本大学中学校 教諭 上久保 拓哉

## 1 はじめに

本校は、「自主創造」（自ら学ぶ・自ら考える・自ら道をひらく）という教育理念のもとに、基礎学力を身に着け、大学受験を視野に中高 6 年間の学力向上を目指している。現在は学校内で全クラスにプロジェクターや Wi-Fi 等の設備が設置されるなどの ICT 環境が整った中、1 人 1 台のタブレット端末を活用しながら、先に述べた学力向上の促進を図っている。それに伴い、NIE の取り組みを取り入れることで、より一層学習の視野が広がると考えた。本校は今年度初めて NIE の取り組みを行うこともあって、題名にもある「社会の様々な事象に対する関心を高める」ことを目標に、まずは新聞を活用し、記事について他者へ紹介することや、その記事を元に自身で調査した内容を報告するということから実施した。具体的な実践内容を以下のように報告する。

## 2 実践の内容

### （１） ホームルームにて（8：20～8：30、16：30～16：40）※全クラス

#### ① 記事を紹介

- ・ 週に 3 回ホームルームにて担当者が新聞の記事について発表。発表は当番制。
- ・ 発表する記事を生徒のタブレットで撮影し、クラスメイト全員に撮影した写真を送信。
- ・ 傍聴する生徒はその記事を見ながら、発表を聞く。

#### ② 感想を発表

- ・ 発表者は自身の選定した記事についての感想を発表。

#### ③ 質疑応答・意見交換

- ・ 発表を聞いた生徒から質問を受け付ける。記事の内容によっては、討論会へと発展。



※生徒から質問を受け付ける様子→

#### ④ 感想を提出

- ・ 発表を聞いた生徒全員分の感想や意見を生徒の持つタブレットを使用して、ロイロノートに提出。
- ・ 提出された感想・意見は生徒間で共有。いつでも誰でも見る事が可能。

**※全員分の回答を画面で見ること  
とで他者の考えをリアルタイムに確認することができる**



### (2) 文化祭にて（準備期間→12/11～12/14、本番→12/16）※1学年

#### ① 調査（準備期間）

- ・ 1学年 106名を18班に分ける。1班6名。
- ・ テーマは国について。諸外国の様々な分野を新聞等で調査。
- ・ 準備期間は4日×3時間。
- ・ 全員タブレットを使用して、調査した内容を班内で共有。



② 中間発表（準備期間 3 日目）

- ・ 18 班全てが中間発表を実施。
- ・ スクリーンを使用し、調査した内容を発表する。
- ・ 18 班の中から良かったと思う班を投票。



③ 中間発表での良かったと思う班に投票。

- ・ ロイロノートを使って投票。
- ・ 投票の結果、18 班のうち、上位 3 班は全校生徒及び保護者に向けて、文化祭本番で発表。
- ・ 上位 3 班以外の 15 班は、調査した内容の新聞を作成。文化祭会場である体育館に展示。



↑ 生徒の持つタブレットを使用して、ロイロノートのアンケートを実施。上図はアンケートの結果。

#### ④ 文化祭本番での発表

- ・ 体育館にて発表。
- ・ 投票で選ばれた 3 班が発表。



### 3 成果と課題

#### (1) 成果

##### ① ホームルームにて

- ・ 新聞をあまり読み慣れていない生徒たちが、新聞に目を通す機会が格段と増えたことにより、新聞の活用方法を学ぶことができた。
- ・ 新聞記事を生徒に紹介するにあたって、記事を要約するための読解力向上が見られた。
- ・ 時事問題について興味・関心を持ち、自身で社会情勢を調べる生徒が増えた。
- ・ 人前で話す機会が増えたことで、積極的に意見を主張する生徒が増えた。

##### ② 文化祭にて

- ・ 新聞作成の班に関して、文章構成や接続後の使い方など、文章作成における能力が向上した。
- ・ 世界情勢を調査することにより、時事問題について詳しく知ることが出来た。
- ・ 生徒間で協力して調査することにより、相手の意見を尊重した上で、自身の意見を主張できた。

#### (2) 課題

- ・ 活動を通して、どの部分で伸びが見られたか数値化する必要がある。
- ・ 生徒が新聞を自由に閲覧するためのコーナーを設けるなど、もっと工夫が必要である。